

世界自然遺産である白神山地のふもとの町で僕は生まれ育ちました。全校登山では、生き生きとしたブナ林や澄んだ沢水、虫や鳥など、たくさんの自然の中で生活していることの幸せ、豊かさを実感することができます。町には、商業施設や遊園地などの娯楽施設はないので、時々はそのような施設がある町を羨ましくも思います。それでも、建築物を創り上げる何百倍もの時間をかけ、継続的で、丁寧な手入れで守られてきた自然は、僕たちの誇りです。保護・保全に積極的に関わり、遺産としての価値を維持しようと、町の人みんなが愛着をもって、大切に守っています。でも、気持ちだけでは守るにも限界があります。この緑あふれるふるさととは、どのように守られているのだろうか調べてみて、環境を守るための税があることを知りました。

これまでも、生活の中で「税のおかげ」を実感することはたくさんありました。将来、プロ野球選手を目指している僕にとって、夜でもランニングや素振りができる舗装路や街灯はありがたいです。それに、学校や机、教科書、病院や救急医療、消防に、ゴミの収集……。挙げたらきりがありません。それなのに、自然保護にも使われていたなんて驚きです。いや、緑があふれている町が僕にとって当たり前すぎて、「守ること」について、あまり意識していなかったのかもしれない。

当たり前すぎると、大切なものが見えなくなる——。もしかすると、意識していないだけで、僕が思うより、もっともっとたくさんの税がこの町に、生活に生きているのかもしれないと思いました。ただ自然と同じで、税があまりに身近すぎて、しかも、その存在を主張することなく、常に控えめに僕らの生活を支え、潤しているために、その大切さ、ありがたさを意識していないだけではないでしょうか。この町を知らない人、僕の知らない人までもが、この町を支えてくれていると思うだけで、温かなつながりを感じます。

小さいけれど、田舎だけれど、僕の大好きなこの町を支えてくれる人たちに、まだ収入のない僕は何ができるのかを考えてみました。まずは、みんなで支え合えば、今よりもっとよい社会になるということを学ぶこと。そのために、一人一人が納める税の力は小さくても、みんなの力が集まれば、たくさんの人の笑顔と生活を守れる大きな力になるのだということ、その思いを形にできるような立派な大人に成長する努力をすること。そして、その思いをつなげていくこと——。

僕は白神山地のふもとの町で生まれました。父もそうです。そして、母の生まれは鹿児島県屋久島町。「税は、何千年も昔からの美しい自然を守ってくれている。ありがたいね」と母は言います。これからも、僕はみんなの思いが息づくこの町で暮らしていきます。大好きなこの自然と、僕らの生活を支えてくれる人たちの思いに感謝しながら——。